3.4.2. 具体整備事例

(1) 日常的な外出に関する整備や取組事例

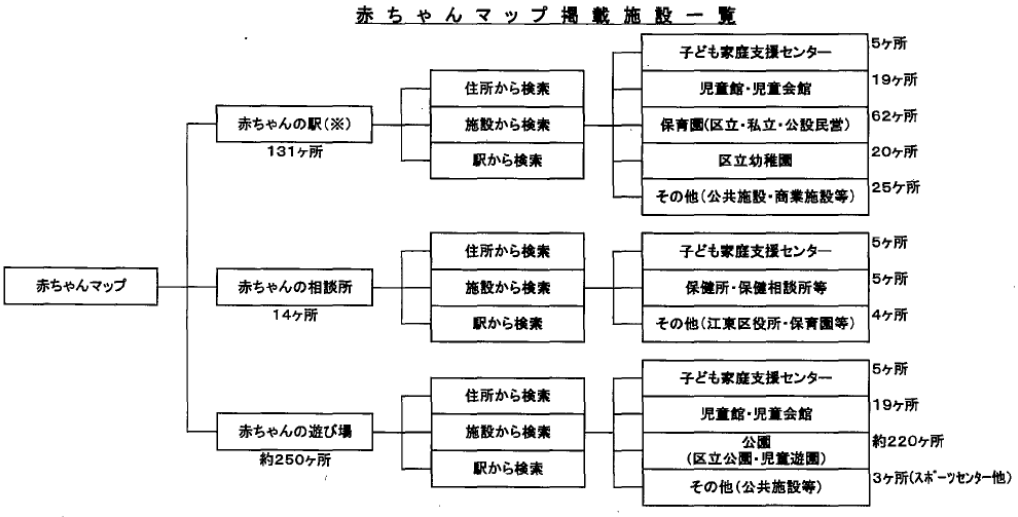
■亀戸駅周辺の拠点と情報提供：既存の地域資源を活用し、身近な地域に外出時の資源を確保

１．江東区における赤ちゃんマップの取組

（１）赤ちゃんマップ事業（携帯サイトによる情報提供）

- 江東区子ども生活部では、「乳幼児を持つ保護者が気軽に外出できる環境を整備することにより、子育て家庭の福祉向上を図ること」を目的として、「赤ちゃんマップ事業」を平成 20 年度より実施している。
- 当初は紙情報としてのマップ作成を検討したが、いつでも情報を取り出すことができるよう、携帯サイトの活用による情報検索機能を構築した。これにより外出前の情報検索・入手だけでなく、外出中でも情報検索・施設利用が可能となっている。
- 赤ちゃんマップには「赤ちゃんの駅」、「赤ちゃんの相談所」、「赤ちゃんの遊び場」の情報が掲載されている。

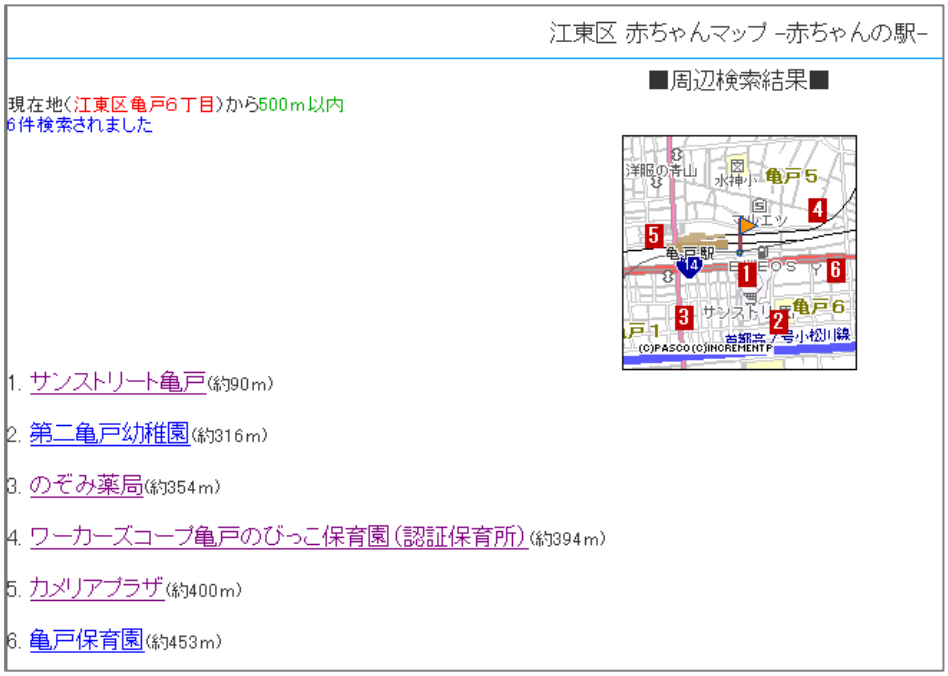
江東区の赤ちゃんマップの紹介画面



赤ちゃんマップの掲載施設一覧

（２）赤ちゃんの駅

- 「赤ちゃんの駅」については、授乳やおむつ替えの心配がなく、外出できる環境を整えられるよう、「授乳・おむつ替えの場所を提供でき、男女の区別なく無料で利用できること」が条件とされている。子ども家庭支援センター、児童館、保育園、区立幼稚園、公共施設、商業施設等で 131 カ所（2010.2 月現在）が登録されている。登録にあたっては、利用者アンケートで利用したことのある施設を抽出し、依頼等を行った。
- 幼稚園や保育園などではインターホンで「授乳（おむつ替え）です。」と伝えれば利用できるようになっている。
- 「赤ちゃんの駅」として認める施設については、江東区で用意する「旗」を掲示して利用者への周知をはかることとなっている。
- なお、東京都で実施している「赤ちゃん・ふらっと事業」で指定の要件となっている調乳用の給湯設備については、江東区の赤ちゃんの駅では要件としておらず、指定のハードルを下げて地域でより多くの拠点確保を目指している。常時お湯を確保するのは容易ではない。お湯の提供については、現場において臨機応変に対応している。
- この携帯のサイトから、例えば、亀戸駅周辺地区で検索をすると、駅から 500m以内で 6 件の情報が検索される。



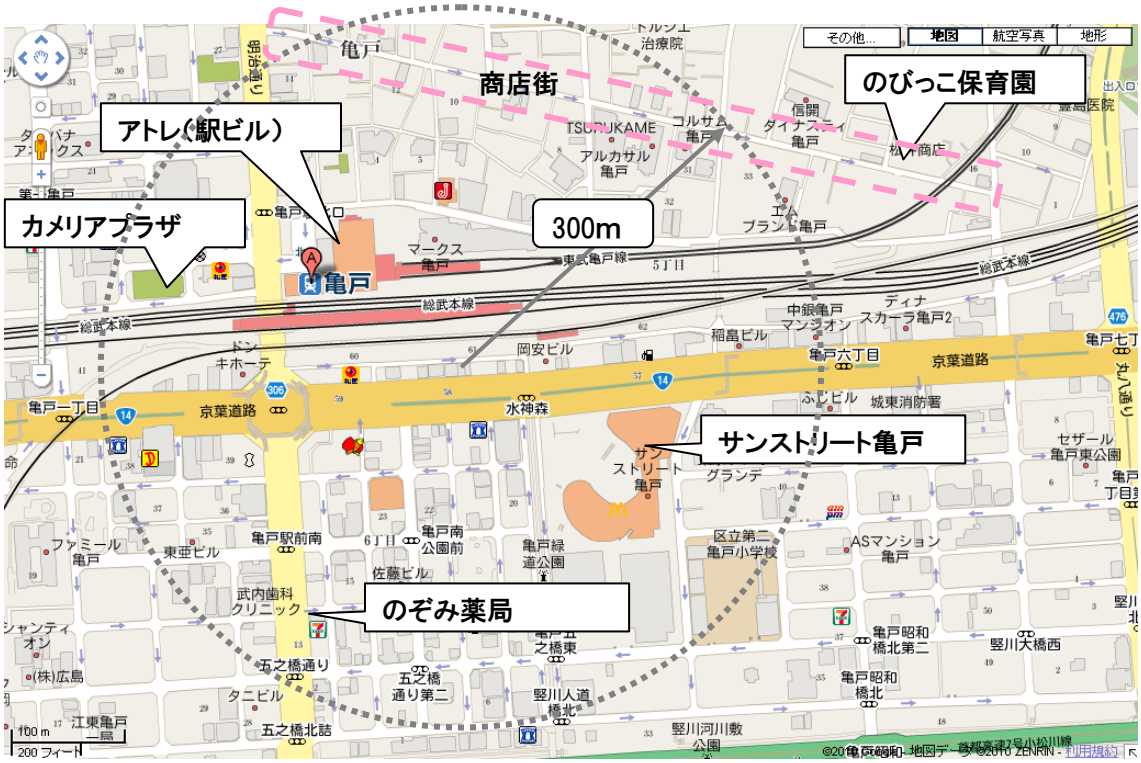
亀戸駅周辺地区（500m 以内）の検索結果

赤ちゃんの駅シンボルマーク

赤ちゃんの駅シンボルマーク

２．亀戸駅周辺の資源

- 亀戸駅周辺には赤ちゃんの駅の登録施設が 6 件あるが、それ以外にも駅ビル内に授乳室が存在する。
- 大規模ショッピングセンターのような商業施設ではない、公的施設や商店街の中での赤ちゃんの駅、薬局などが地域内の資源としての機能を担っている。

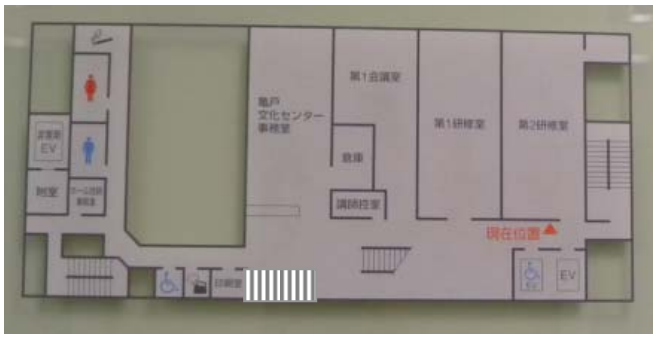


（１）カメリアプラザ

- 駅に近接するカメリアホールや会議室・研修室が入る文化センター
- 授乳室は 5 階文化センター事務所前の待合いスペースの一部をパーテーションで区切って設置されたもの。（平成 20 年度）　赤ちゃんふらっと（都事業）及び赤ちゃんの駅（江東区）の両方に認定されている。お湯については、求めに応じて事務所の方が対応している。
- 同じフロアにある身障者用トイレ（どなたでも利用できます）にはおむつ替えシートも設置されている。

カメリアプラザ外観

カメリアプラザ入り口の表示
赤ちゃんの駅（区）と赤ちゃんふらっと（都）の表示



５Ｆ フロア図（縦縞部分が授乳室）

授乳室内部

パーテーションで仕切られた授乳室

（２）ワーカーズコープ亀戸のびっこ保育園

- 駅に近接する亀戸中央通商店街の端に位置する保育園。
- 商店街の中での赤ちゃんの駅としての機能を担っている。保育所の既存施設を活用することで対応している。
- 公園帰りの乳幼児連れや、子どものトイレを借りにくる親子などがいるとのことである。

商店街の通り（駅方向を望む）
のびっこ保育園は右側

のびっこ保育園入り口ドア

（３）のぞみ薬局

- 明治通りに面し、バス停にも近い薬局。
- 歩道から赤ちゃんの駅スペースがよく見え、薬局を使わない方でも気軽に利用ができる。
- キッズスペースの他、給湯設備、おむつ替えシートの設置されたトイレがある。

のぞみ薬局そばのバス停

のぞみ薬局外観

ガラス張りで外からよく見える

遊ぶスペースと授乳室

授乳室内部

お水のサーバー、給湯も可能

おむつ替えシートのあるトイレ

踏み台をおいた洗面台

（４）サンストリート亀戸

- 大規模ショッピングセンター内の授乳室。隣接して乳幼児の貸し出しカートがおかれている。

柱に表示された授乳室の案内

乳幼児向けショッピングカート

授乳室ドア（ベビーカーでの
入室は２台までと記載されている）

隣接する緑道

（５）その他駅周辺の資源（駅ビル（アトレ）及び駅構内）

- アトレの授乳室は子ども未来財団の助成を受けたものの表示がある。
- 授乳室は防犯上の理由より男性入室禁止となっており、江東区の赤ちゃんの駅の要件（男女の区別なく）を満たすことができないため、赤ちゃんマップ上には掲載されていない。駅ビルで多くの人が容易にアクセスできること、職員の目が届きにくい位置（フロアの端）にあることが要因と推察される。

アトレの授乳室（入り口付近の表示）

授乳室内のおむつ替えシート

カーテンで仕切られた授乳スペース

- 女性トイレ内のパウダースペースにはおむつ替えシートと椅子、簡易なカーテンがあり、授乳スペースとしても活用ができる。
- 駅構内の誰でもトイレにもおむつ替えシートが設置されている（清潔さの点で若干難あり）

アトレ　トイレ（表示）、（手前が女性トイレ、奥が身障者用トイレ）

女性トイレ内部（パウダーコーナーの一角をカーテンで仕切って使えるようになっている）

JR 亀戸駅　誰でもトイレ

■四国高知のスーパー「サニーマート」のおもちゃ広場を拠点とした取組

1．おもちゃ広場の誕生

（1）次世代店舗あぞの店におもちゃ広場が実現

- 「人間を大切にすること」を基本理念に経営し、小学生を対象とした「ちびっこマラソン」や「水泳教室」などを 30 年間継続して開催してきている。
- 「地域密着」の会社方針による社会貢献を進める中、2008 年 11 月に次世代店舗として位置づけられた「サニーマートあぞの店」の改装を行った。「健全な子どもを育てる」ため、従来の売り場をつぶし、独立した「おもちゃ広場」のコーナーを設置した。

おもちゃ広場にある木のボールプール

（2）おもちゃ広場

- おもちゃ広場は、店舗正面側に沿ってレジエリアの突き当りの位置にある
- おもちゃは全て木製。木のプールがあり、木の床は土足禁止で清潔感がある。
- 会員制（入会金 100 円）で親子は名札をつけることが利用の条件。入会後は、無料で自由に利用が可能。（年中無休 9:30-18:00）
- 現在会員 1300 組。毎日約 30 組が利用。新規会員の 25%は口コミで知ったとのこと。利用者の 30%は今まで来店したことがなかった方で来客効果の一部を担っていると推察される。
- イベントなどに対する期待度が高まり、定期的な参加をされる方が増えてきている。
- 園長（管理人）自ら親子に関わるとともに、子育て支援に関する地域の情報を集め発信している。地域の保育園・小学校・子育てサークルなどと連携を取り、サークルやボランティア個人に対して活動の場所としておもちゃ広場の開放も実施している。

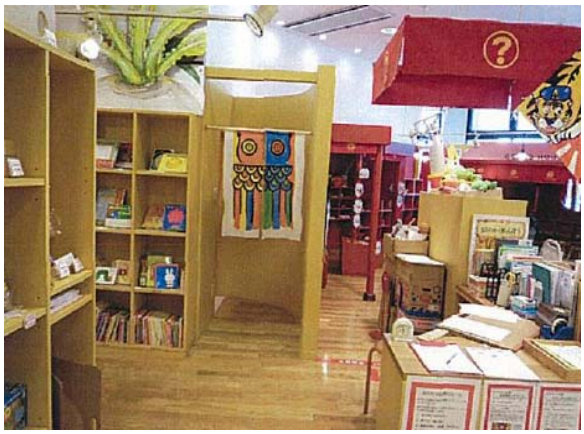
おもちゃ広場外観

おもちゃ広場はレジ奥に位置する

親子がくつろぐためのベンチと机
中央に職員カウンター

ボールプール

下駄箱横のベビーサークル



入り口を入ると右手にカウンター
突き当たりが洗面室

洗面台と授乳室

おむつ替え台にはクッションと保温用のマットと
除菌シート、おむつ持ち帰り用のビニール袋

奥に向かって突き当たり
左が女の子用、右が男の子用トイレ

子どもサイズの便器

２．おもちゃ広場を拠点とした活動

おもちゃ広場を拠点とし、活発かつ多様な活動を展開している。店員自らが企画し、実施する企画が中心であるところが特徴である。活動は広場内に留まらず、地域との双方向な情報等の流通、他の地域での展開など、広がりを見せている。

おもちゃ広場のプログラム

（１）お話サークル

- あぞの店の店員が自ら絵本の読み聞かせ等を行う。
- 月に 2 回開催。2010.2.17（水）で第 25 回目。平日のお昼前の時間帯（11:00-11:30）に実施。
- テーマは食育。身近な食べ物の実物をいろんな角度から研究する。高知やさい体操、手遊び歌、紙芝居、絵本、スクリーンシアターなど。「みてみようコーナー」では青果担当者が季節の野菜や果物などの実物を用いて解説してくれるなど工夫されている。

お話サークルの開催の様子

（２）おもちゃ工作教室　月２回の実施。

- 土曜日の午後の１時間（15:30-16:30）で実施。牛乳パックを使った「不思議なくるくるボックス」やひなまつり等の「季節行事に合わせた簡単なおもちゃ」などを作成。
- 人気のあるプログラムは事前申し込み制にすることも有る。材料費を必要に応じて徴収。
- 小さい子でも簡単につくれるよう、キットを用意するなど工夫をしている。
- 土曜日でもあり、お父さん（ついつい熱中）の参加もある。

（３）料理教室

- 食育のための親子料理教室。食物が何から出来ていて、どうやって加工し、自分の口に入るのか、「見て」「さわって」「味わう」体験ができる
- サニーマート御座店で実施。講師は職員が務める。また関係会社の協賛を得て実施。

【プログラム例】

- こんにゃく生芋からいろいろなこんにゃくを作り子どもが料理。こんにゃくを大好きになってもらう。
- 夏野菜を使ったおやつ作り。根付きの枝まめの木から、大豆をつかった豆腐づくりまで。

（４）その他活動

- 「きて・きて！」お話し会：地域で活動しているサークルの方に広場を解放。月１回。
- コッコ・サンお話会：絵本の専門店「コッコ・サン」を呼んだプロによる読み聞かせ。
- 赤十字幼児安全法の教室：日本赤十字社高知県支部から講師を招聘し、誤飲時の対応の仕方、容態確認の仕方、適切な子どもの体勢など講義と実技指導。子ども同伴で聞けるため、子どもをモデルに理解が進む、飽きたらおもちゃコーナーで遊ばせることも可能。
- 乳幼児の食事教室、アレルギーの食事教室、乳幼児の歯科衛生教室：いずれも近隣地域の有資格者（先生）の協力（ボランティア）により、勉強会を毎月開催している。

（５）広報活動「おもちゃ広場だより」

- サニーマートあぞの店が毎月発刊しているコミュニティ誌。H21.5 に創刊。
- 1 面にはサニーマートやおもちゃ広場の思い、活動内容。2．3 面には地域の子どもを対象とした行事や活動。4 面には地域のコミュニティ活動や地域の子育て支援に関する情報を掲載。
- 読者等に、活動や団体・サークルの情報提供に関する依頼を行い、店長、副支店長みずからが取材に赴いて記事を作成している。
- 子育て関係の他にも、地元の地域防災活動促進大会なども取材し、地域防災会連絡会との災害時の協力体制に関する協定書の締結についても報告するなどしている。
- このような活動を通じ、地域の世話役・団体・サークルの活動が公になるとともに、顔の見える関係を築くことでさらに情報流通が促進されている。また、地域住民同士の交流が増えることによって地域活性化にも寄与している。

（６）あぞの店以外の取組の広がり

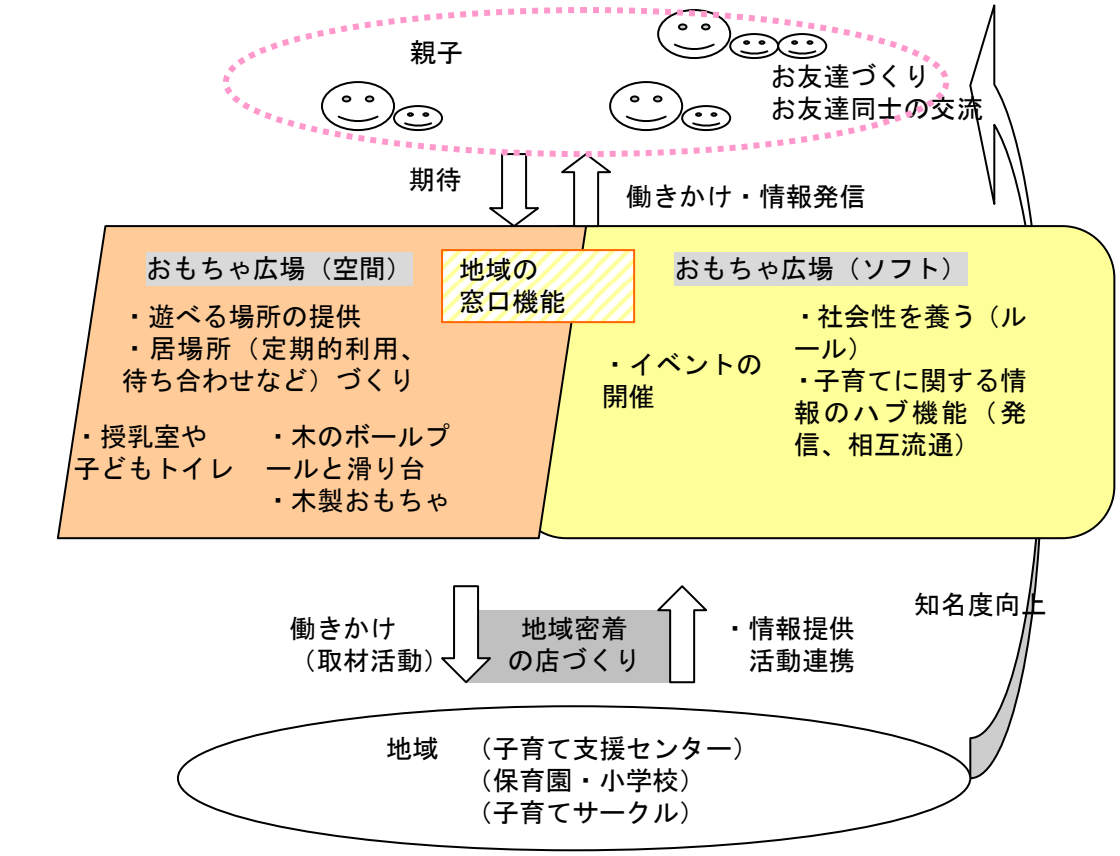
・ 高岡店での「たまごくらぶ」さんの「おしゃべりカフェ」：イートインコーナーの一角を地元の子育て支援サークルに解放し、関連会社従業員も参加してのお話会

高松市にあるサニーマート円座店でのお話会
（わはは HP より引用）

サニーマート円座店さんが「子育て支援をしたい！」と熱い思いでご相談されて２か月…粛々と準備を進めようやく、子育てイベントを店舗で開催できました！～略～オープニングは、サニーマートの皆さんによる「あいあい」ダンス！
その後わははスタッフの読み聞かせやエプロンシアター、そして終盤、サニーマートさん独自の「なんだろ？ボックス」
スーパーならではの謎のボックスに入った野菜を手を入れてあてっこ。これには子どもも大人の大興奮。その後、みかん、ぽんかん、いよかん、おれんじ、レモン、でこぽん、文旦…いろんな柑橘類を切ったりするショー？もあり、みんな大満足いただけたようです。

円座店でのお話会催の様子

おもちゃ広場が担う地域の窓口機能（関係図）



■商店街にある「まちかど子育てホッとステーションわはは」（香川県高松市）

１．まちかど子育てホッとステーションわははの概要

住所　香川県高松市大工町 1-4
電話　087-822-5582　FAX　087-816-5582
時間　月～金曜日 10:00～16:00
琴電片原町から徒歩 7 分、今新町バス停または紺屋町バス停から徒歩 5 分

- 高松市の委託を受けて、NPO 法人わははネットが運営しているつどいの広場。「わはは・ひろば高松」の他に「わはは・ひろば坂出」「わはは子育て広場ジャスコ高松店」がある。
- 0 歳～就園前の子どもと保護者と妊婦さんのための子育て応援スペース。いつでも気軽に立ち寄って自由に過ごせるフリースペース。子育ての情報交換やおしゃべりができる。丸亀町商店街のすぐ近くなので、買い物の途中に立ち寄ることが可能。
- 利用にあたっては、万が一の怪我の保障としての保険料（年間 300 円（4 月更新）１家族あたりの利用料）及び利用料（１日会員：100 円／日、月会員 500 円／月）を支払う。利用者もひろばを支える一人との考えのもと、「ひろば」運営にかかる費用の一部を運営のお手伝いとして支払うこととしている。
- 「ひろば」では、託児はしていません。お子さんがひろばで安全に遊べるように、保護者の方が責任を持って見守る。ごみはできるだけ持ち帰る（おむつも含む）

わははから 50mほどに位置する高松丸亀町商店街。「人が住み、人が集うまち」を目指す再開発事業を実施中
商店街に子育て中の若いママも買い物にくる魅力があるとともに、定期借地権付新築分譲マンションも販売されている

わはは外観
建物前のスペースはイベントなどで活用

わはは　利用の様子

２．わははの活動

- 自由遊びの他、季節行事に合わせたイベント、子育関係講座、お誕生会、英語であそびなどのプログラムを実施している。
- 障害者活動センター「サン」と連携をとり、バザーの日を設定。手作りの無添加パンやお菓子の販売に協力している。
- 弟４月曜日の午前中にスタッフ勉強会を開催し、ふたご・みつごを育てる家族の様子とその支援など、研鑽を積んでいる。

◀ 2010年 ▶

1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月

日	月	火	水	木	金	土
	1 【節分あそび週間】 1(月)～6(土)の一週間、工作あそびやベーブサートで楽しもう!鬼も来るかも!?協力:クロッシング 11:00～11:30 【おもちゃビカビカDAY】 子ども達が使うおもちゃをきれいにしよう！	2 【節分あそび週間】 11:00～12:00 【恵方巻き体験】 今年もひろばで恵方巻きを作って一年の福を願いましょうね！楽しい節分にちなんだイベントもあるよ！【参加料】材料費100円(別途ひろば利用料)【持ってくるもの】おてふき・空のお弁当箱・お箸またはフォーク※先着15組(電話予約可！)	3 【節分あそび週間】 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	4 【節分あそび週間】 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	5 【節分あそび週間】 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	6 【節分あそび週間】 10:00～15:00 【土曜ひろば】 いつものひろばが土曜日にも開催！ 平日になかなか来ることのできない、おじいちゃん・おばあちゃん・パパさんも大歓迎！
7	8 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	9 13:00～13:30 【英語DEあそぼ】 アンドリュー先生とたっぷり英語DEあそぼ！ 協力:GEMスクール	10 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	11 建国記念の日	12 10:30～11:30 【教具DEあそぼ】 月齢にあった学習のヒントがみつかるよ！。協力:KUMON 11:30～ 【「サン」のパン販売】 障害者活動センター「サン」のバザーの日。手作りの無添加パンやお菓子があるよ。毎回売り切れ次第終了なので、早めに来てね！	13
14	15 13:00～14:00 【プレママの会】 妊婦さん集まれ～！先輩ママさんや助産師ママさんも参加するよ♪	16 11:00～11:30 【マザーグースDEあそぼ】 親子で英語に親しもう！音楽に合わせて踊ったり、英語の読み聞かせもあるよ。協力:ラボパーティー	17 10:30～11:30 【小児歯科検診】 優しい先生が個別に検診してくれますよ。ちょっと気になる子どもの歯のこと、ママの歯のこと、なんでも相談してね。 協力:亀井歯科	18 【自由あそび】 子育ての情報交換をしたり、子どもと絵本や木のおもちゃで遊んだり、自由に過ごしてね	19 11:00～11:30 【わらべ歌あそび】 親子でお気に入りのあそびを見つけよう！協力:高松本とおはなしの部屋	20

インターネットで提供されている活動プログラム

わはは内部、本やおもちゃなどを使って自由に過ごすことができる

入り口ゲート（子どもの手が届かない高い位置に鍵がつけてある）

下駄箱付近にある子どもサイズの腰掛け台

壁に貼られている地域資源マップ

おむつ替え台と洗面台、
高さにバリエーションの
ある子どもの踏み台を準備

■住宅街にある庭付き一戸建てを活用した「おでかけ広場あみーご」（東京都世田谷区）

住所　世田谷区松原４－２－１８
電話　０３－３３２８－４４１１
時間　火・木・金曜日　（１０時～１５時）
世田谷線「松原」駅から徒歩８分、
小田急線豪徳寺から徒歩１０分。

１．おでかけ広場あみーごの概要

- 世田谷区の「おでかけひろば事業」の補助をうけ「子育て支援グループ amigo」が運営するおでかけひろば。
- 未就学児（原則として 0～3 才まで）の子どもと保護者を対象としており、交流したり情報交換したり、育児相談できる場所を身近な地域に整備することにより、子育て中の親の子育てへの負担感の緩和と地域の子育て支援機能の充実を図ることを目的として設置されたスペース。
- （財）世田谷トラストまちづくりが支援するオーナーが所有する家を近隣に開放し、地域に役立てる取組「地域共生のいえ」のひとつで、オーナーから提供された庭付きの一戸建ての１F スペースを活動の場としている。

あみーご入り口

あみーごパンフレットより

２．あみーごの活動

- 子育て応援講座として、「母乳育児の話」「こどもの歯教室」「なつかし遊び」などを実施している。
- プログラムへの参加は自由で、利用者は好きなように過ごしてよい。
- 庭があることも多様な活動の一旦を担っている。
- 利用者によるクラブ活動（ガーデニング部、てづくり部など）も始動。
- 世田谷では一人っ子も多く、第１子を授かった地域に知り合いの少ない母親にとっての居場所になっている。

親子がくつろぐ様子

＜子連れでお出かけ
～安全安心対策～をテーマとする意見交換会＞

- 「子育て応援東京会議」の取り組みの一環で「子連れでお出かけ～安全安心対策～」というテーマで、JR 東日本お客さまサービス部との意見交換会を実施。
- 気持ちよくお出かけするために鉄道会社ができること、利用者ができることがそれぞれにあることを皆で確認した。
- 「ルールを作って厳しくすることは簡単だが、それで皆が気持ちよくお出かけできるようにはならない」など、活発な意見交換を行った。
- このようにテーマを決めて話をするような取組も実施している。

お庭でお掃除

■ベビーカーに子どもを乗せたまま乗車できる横浜市営バス（神奈川県横浜市）

１．取組の背景

- 平成 12 年の交通バリアフリー法施行を受け、ノンステップバスの導入や車いすスロープ板を装備した車両の導入が行われる中で、ベビーカーに子どもを乗せた状態でバスを利用したいとの要望が寄せられていた。
- 「子育てしやすいまち横浜」を目指している横浜市では、平成 15 年にベビーカーに子どもを乗せたままバスが利用できるルールを定め、平成 16 年 1 月より全国初のベビーカーに子どもを乗せたままでバスに乗車できる取り組みを開始。昨今、全国のバス事業者でもこの取り組みを参考に実施しているバス事業者が増加している。

２．ベビーカーに乗っている子どもの安全性を確保するための配慮等

- ベビーカーに乗っている子供の安全性を確保するために、以下の対策が取られている。
  (1) ベビーカーは後ろ向きに置く。
  (2) シートや手すり等にベビーカーをベルトで固定する（ベルトの固定は乗務員が実施）。
  (3) 保護者はベビーカーの前に立つ等して、ベビーカーを支える。

  但し、これだけで十分な安全性が確保されるものではなく、さらに乗務員の安全運行や保護者の細心の注意が必要である。

車内に貼られた「ベビーカーに子どもを乗せたままバスに乗車」する際の注意事項」

- 一方、次の状況下においては、ベビーカーに子どもを乗せたままでの乗車を断っている。
  (1) 車内が混雑しているとき
  (2) 自動車専用道路や坂のある路線区間を運行するとき
  (3) 2 人乗りや大型のベビーカーでスペースに収まりきらない、あるいはベルトで固定することができないとき
  (4) 車いすの利用者が乗車しているとき（車いす利用者が優先）
  (5) 3 組以上のベビーカー利用者がいるとき（一度に利用できるのは、原則 2 台まで）

シートや手すり等に
固定されたベビーカー

- 乗務員からは、安全のためベビーカーへのベルトの固定、ルールの遵守をお願いしているが、最終的な判断と責任は利用者に委ねている。
- 車いすやベビーカーが降車する際は、車内放送等で他の乗客に案内・協力をお願いしている。

３．子育て支援に向けた社内での取組

- 乗務員への教育は、各営業所で研修等を実施している。
- ベビーカーでの乗車方法を横浜市交通局ホームページより情報提供している。

〈http://www.city.yokohama.jp/me/koutuu/bus/about/babycar.html〉

出入り口扉に掛けてある
ベビーカー固定用のベルト

ノンステップバスでのベビーカーを設置しない時の標準的なシートの状況（左）と
ベビーカーを設置した時のシートの状況（右）

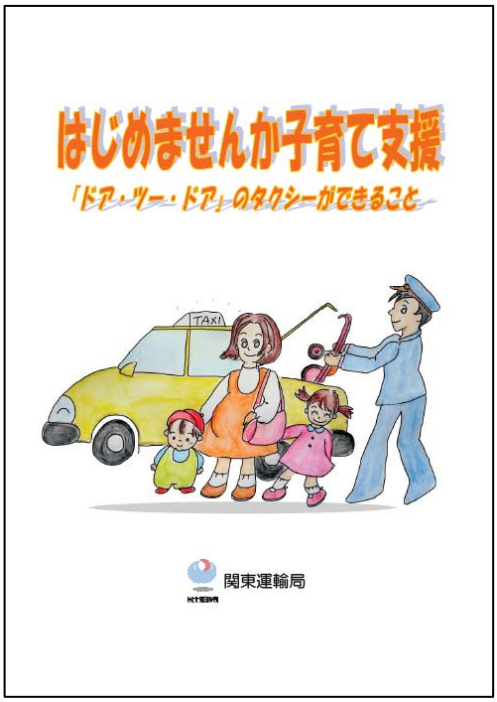
ワンステップバスでのベビーカーの設置状況

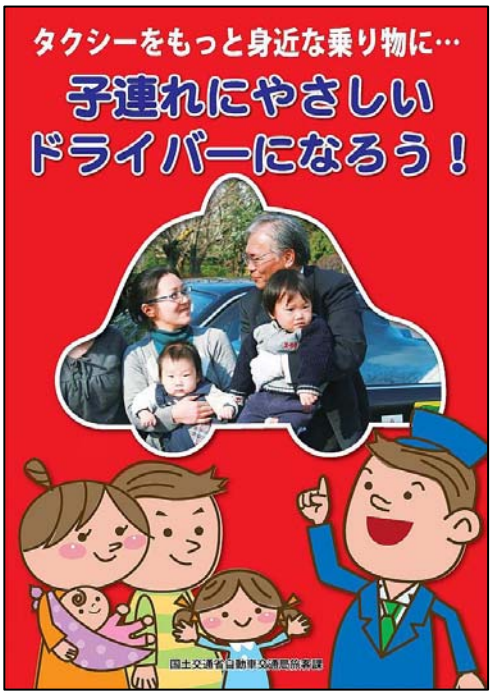
■子育てタクシー® によるスペシャルトランスポートサービス（全国子育てタクシー協会）

１．子育て支援のタクシーについて

（１）「子育て支援のタクシー」

- 乳幼児連れの親や、子ども １ 人での外出などの場合に、安心感を与える対応や接客を行ったり、チャイルドシートの他、荷室の整理や車内の清潔感、臭いへの注意などソフト・ハード面において様々な配慮が行われ、利用しやすいタクシー。
- 自家用車を保有していないペーパードライバーなど自力で車を運転できない場合や、駐車場の少ない場所に出かける場合、複数の子連れで自力で運転すると子どもの安全確保が不安な場合、また、子どもを １ 人で移動させる必要がある時などに便利である。
- 一般のタクシーに比べ、丁寧な対応や、より一層の安全性、信頼性が求められている。
- 「子育て支援のタクシー」によって、タクシー事業者や運転手もタクシーが社会貢献として、「子育て支援」のツールとして活用できることを知り、また、「子育て支援のタクシー」に取り組むことで、子育てや子育て支援に理解を示す人が増えることが期待される。
- H18 年に、関東運輸局関東運輸局企画観光部から、「はじめませんか子育て支援「ドア・ツー・ドア」のタクシーができること」パンフレットが出されている。
- H19 年に、国土交通省自動車交通局から「タクシーをもっと身近に　子連れに優しいドライバーになろう」（タクシーによる育児支援移送サービスの今後の課題分析及び運転者に対する講習カリキュラムの策定検討委員会）パンフレットが出されている。





（２）わははネットと花園タクシーによる子育てタクシー®の取り組み

- 最初の取り組みは、H16 にわははネットと花園タクシー（香川）でスタート。
- 平成 16 年 6 月に NPO 法人わははネットが「子育てタクシー」企画を花園タクシーに提案し、花園タクシーのドライバー5 人を「子育てタクシードライバー」として養成。夏休みである 7 月末～8 月に試験運行を実施し､約 40 世帯の子育て家庭の利用があり、試験運行後、利用者にアンケートをとり、そこに書かれていた感想や今後の要望に基づき、子育てタクシーの本格運行へ。同年 9 月より花園タクシー1 社にて本格的に運行開始。
- H17 に香川県子育て応援団大賞（花園タクシー）を受賞し、香川県内 8 社に展開。
- H18.6 に全国子育てタクシー協会設立。県外への普及へ。
- H17 エコモ財団「交通バリアフリー大賞」（NPO 法人わははネット及び花園タクシー）
- 国土交通省総合政策局、交通分野の新サービス、新規事業・新規 サービス事例集　掲載
- 関東運輸局企画観光部交通企画課で　紹介＜はじめませんか子育て支援「ドア・ツー・ドア」のタクシーができること　パンフレット＞

２.「子育てタクシー® 」のサービス概要（全国子育てタクシー協会）

- 荷物の多い、乳幼児を伴っての外出のサポートや、子どもだけの送迎も安心して任せられる“地域の子育て応援団”としてタクシーを活用しやすいよう、数々の配慮を行うサービス。
- 「子育てタクシー® 」は全国子育てタクシー協会の登録商標である。商標登録を取得して、子育て移送（移動）サービスのガイドラインを設け、類似事業との差別化をはかり､「子育てタクシー® 」ブランドとしての品質維持を図っている。オリジナルロゴや専用のステッカーを使用し、現在加盟事業者は全国 50 社を超えている。

子育てドライバー認定バッヂ

- 「子育てタクシー® 」は全国子育てタクシー協会の登録商標である。協会加盟事業者には「子育てタクシー保険」に加入することを義務付けている。現在加盟事業者は全国に渡り 50 社を超えている。
- 「子育てタクシー® 」の特徴は、各地域の子育て支援事業者とネットワークして情報を共有し、そのメリットを最大限に生かして子育て家庭のさまざまなニーズに対応している点である。その結果、利用者からは「安心・安全」を約束するブランドタクシーとして信頼を得ている。また、特有のサービス内

容から、あらゆるリスクマネジメントを行い、独自の子育てタクシー補償に加入し、さらなる安全に配慮している。

- 「子育てタクシー® 」の営業を行っているのは、全国子育てタクシー協会が認めた優良会社で、ドライバーは、協会がコーディネートした地域の子育て支援団体と連携した、ドライバー研修として『運転』と『子育て支援』のプロとして、協会指定の養成講座（8 時間以上）をおよび、現場での半日の保育実習を修了する必要がある。（研修内容は、子育てタクシー協会についての説明と現状、子供の安全な移送、子育て支援の現状と課題や、子育て家庭のニーズ、保育とコミュニケーションスキル、保育実習等）修了者には「子育てタクシードライバー」の証として、「認定証」「証明書」「認定バッヂ」を授与。
- サービスは基本として次の 3 種類が設けられ、原則は事前予約申込制となっている。
  ○ 乳幼児と保護者が同乗する「かんがるーコース」
  ○ 子どもが 1 人で乗る「ひよこコース」
  ○ 急なトラブル・夜中の移動などの「ふくろうコース」（事前予約なし）
  基本サービスをベースにして、出産間近の妊婦の移動へも十分な配慮を行うなど、条件によって個別対応。その他障害のある子への対応を今後の検討課題として積極的に取り組むなど、利用者の意見をとりいれ、常に改善していく姿勢を取っている。
- 子育てタクシー利用で、特に料金の割り増しは行っていない。利用者の会員登録があり、会員は通常のタクシー利用料金より若干の割引がある。事業者にとってはコスト増に対し利益はかえって減少。利用者の増加を期待することと、社会貢献のために実施している。
- チャイルドシートなどの装備は常時タクシーに積み込んでいないため、流しのタクシーでは対応が困難。また、チャイルドシートも何種類かそろえており、子どものサイズに合わせて取り替える必要があるため、事前予約により配車準備を行ってから出発する。
- 子ども 1 人で乗車する場合は、子どもを確実に引き取り、引き渡すところまでがサービスとなっているが、その 2 者が保護者とは限らないため、子どもの安全確保のためにも予約により 2 者の事前了解が保証されていることが必要である（事業者談）。

(2)　公共的な場所での整備事例

■赤ちゃん･ふらっと　授乳室や、子どもトイレの事例「東京しごとセンター」

１．赤ちゃん・ふらっと事業の概要［2-1-4(4)1)項（p.2-18)を参照］

（１）赤ちゃん・ふらっと事業

（正式名称：乳幼児を持つ親が安心して外出できる環境の整備事業）

- 赤ちゃん・ふらっと事業は、東京都が H20 年 5 月に始めた事業(6 月から募集)。
- 不特定多数の者が利用可能な施設（保育所、児童館ほか公共施設や商業施設等）に、乳幼児連れが授乳やおむつ替え等のために気軽に立ち寄れる場所・設備の設置を促進し、またマークの掲示によりそれを広く周知することによって、乳幼児を持つ親が安心して外出を楽しめる環境を整備するための事業。
- H20 年 10 月に実施要綱の一部が改正され、施設整備の基準が若干緩和された。
- 適合と認定された施設には、「赤ちゃん・ふらっとマーク」を記載した適合証を授与、掲示を認める。

赤ちゃん・ふらっと　マーク

２．東京しごと財団の取り組み

（１）財団法人　東京しごと財団・東京しごとセンターの概要

［財団法人東京しごと財団の概要］

- 東京における雇用・就業対策を戦略的かつ効率的に推進するため、H16「(財)東京都高齢者事業振興財団」と「(財)東京都心身障害者職能開発センター」とを統合し、「財団法人東京しごと財団」として設立された。
- （財）東京しごと財団は、振興財団と職能開発センターで実施していた事業を継承するとともに、「東京都しごとセンター事業」を東京都から受託し、東京しごとセンターを開設した。

［東京しごとセンターの概要］

- 東京しごとセンターは、若年者から高齢者まであらゆる年齢層の求職者を対象に、しごとセンターに入居する機関と連携し、ワンストップにより仕事に関する様々なサービスを提供している。

東京しごとセンター外観

（２）子連れ向け施設の整備

- 東京しごとセンターでは、H19 から女性向け事業を開始（セミナー・サポートプログラムなど）
- 女性向け事業の一環として子育て中の女性の就職支援活動を充実させるため子連れ向けの施設整備を開始、増強した。

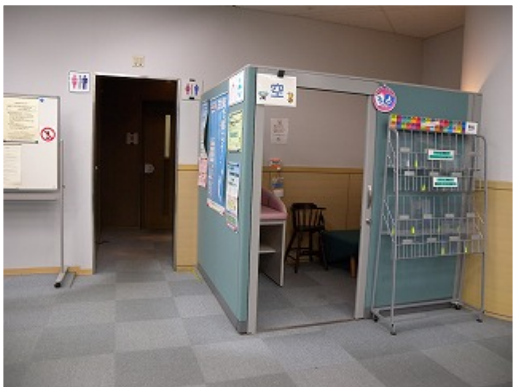
（３）東京しごとセンター　赤ちゃん・ふらっと登録までの経緯

※赤ちゃん・ふらっと登録前から、授乳室や託児室はすでに設置済み。

- 授乳スペースは、H18 のレイアウト変更時点で設置。設置した当時は、授乳・おむつ替えのニーズはあまりなかった。設置後、徐々に増えている。
- H20 年度始め（赤ちゃん・ふらっと事業開始後早期）の段階で、公共機関の登録が少ない、ということで登録申請の検討を始めたが、当時は条件を満足しておらず、登録するためには追加の設備投資が必要、ということから申請を見送った（調乳用の給湯設備）。
- その後、要綱が改正(H20.10.15)され、「調乳用の給湯設備がない場合は、調乳用のお湯を提供するための代替措置でも構わない」こととなったため、他の登録施設の調査を行うとともに、代替措置を講じた結果、H21.6 に登録申請の運びとなった。

（４）授乳室の整備

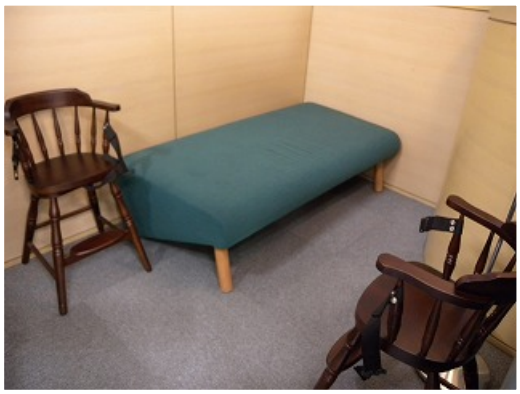
- 調乳用のお湯のためのポットとして、専用のものを事務室で保管（授乳室に置いたままだと、利用者個人に任せることになり、施設提供側としては湯温の管理や水質など衛生管理の点から安全保証できないため）毎日常時 75℃の状態で準備しており、希望者が現れた場合にポットごと提供を行う。
- 授乳ブースは鍵付きパーティション個室、おむつ替えベッドあり。おむつゴミは持ち帰りとし、専用のビニール袋をブース内に置いている。
- 1 階の総合相談コーナー来場者受付前にあり、常に人の目が届く位置。施設利用以外の外来者も利用可能。はす向かいには、「仕事と家庭の両立支援コーナー」を設置している。
- 授乳室利用上の問題として；現状では 1 ブースの個室だが、利用者が増加してくる



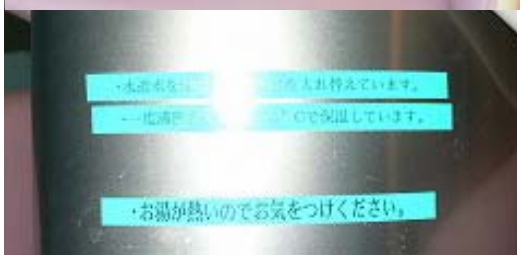
授乳コーナー

赤ちゃん・
ふらっと
マークの表示

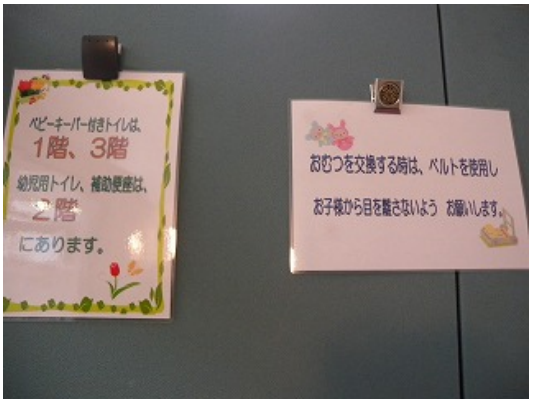
と複数が希望した場合に待ち時間が発生する。



授乳コーナー内部の様子



普段は事務室に置いてある専用の湯沸かしポット
（常時調乳に適した 75℃に保温されている）



利用上の注意書きとトイレ案内

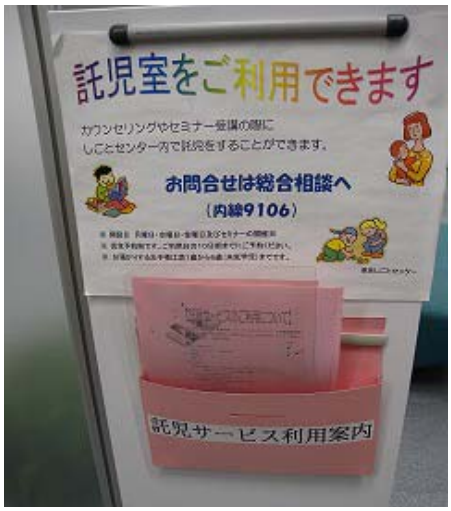
おむつゴミは持ち帰り
（備付けの持ち帰り用ビニール袋）

（５）託児室

託児室の様子

- 託児室は、H19 から設置。それ以前は臨時の託児などで対応していた。
  防犯・安全確保のため、建物内のサイン掲示や、マップへの掲載は行っていない。
  利用申請者に対し、場所の案内マップを送付する。
- 託児室の利用者は、セミナーなどの利用者に限り、事前申込制。利用は無料。
- 2 階のミドルコーナーには、子連れで相談に来た人が利用できる広めの相談ブースを用意している。

・託児室の利用は年間 200 人程度。



案内図には託児室の位置は記載されていない

（６）トイレ

- H19 の託児室設置と同時期に、女性トイレに幼児用便器を設置し、その後男性トイレへの補助用便座の配備を実施。2 階は、託児室を新設することにより、子連れのトイレ利用者の増加を考慮し、対応を行った。
- 2 階女性トイレは 3 つのブースのうち 1 つを子ども専用に改修。手洗いの台も据え付けている。（現在の 2 階女性トイレの構成は、子供用 1，洋式 1，和式 1）
  また、2 階男性トイレは洋式ブース内に、大人用便座に載せて使える取り外し可能の子ども用簡易補助便座が、壁に掛けて配備されている。
- この他、2 箇所のユニバーサル用トイレにベビーキープが設置されている。

子ども専用便器（女性トイレ 3 ブースのうち 1 つを子供用に改修。）

手洗器の前を子供が使いやすいように高くしている（固定台）

男性トイレブース内の壁に掛けられた子ども用補助便座

子ども用補助便座を置いたところ

■横浜駅リフレスタ(中央北改札コンコース内)に設置されたベビー休憩室(JR 横浜駅)

- 2009 年 6 月に開設した「リフレスタ[1]」は、160 ㎡のスペースに、女性専用の有料の「メイクアップラウンジ」と無料の「ベビー休憩室」、ドリップコーヒー等を提供する「ドリップマニア」の 3 施設を併設する、JR 東日本の駅構内における初の女性向け商業施設である。
- ベビー休憩室内は、授乳室やおむつオムツ交換台をはじめ、一人掛けいす、シンク、ファミリートイレ等が設置されている。また、防犯対策として非常ボタンやインターホンが設置されている。
- ベビー休憩室の営業時間は 7:30～19:30。
- JR 東日本では、駅構内（改札内）におけるベビー休憩室に関する情報をホームページより提供している。<http://www.jreast.co.jp/baby/index.html>

ベビー休憩室入口

ベビー休憩室の左隣は
メイクアップラウンジとドリップマニア

おむつ交換台(3 台)、右側の本棚には
雑誌や絵本が置いてある。
奥が授乳室の入口、その手前の左側に
ファミリートイレがある。

授乳室の様子
4 つのブースが設置されている

[1] リフレスタとは、リフレッシュとステーションを合わせた造語。

ファミリートイレの様子

(3)　参考となる充実したサービス

■「ラゾーナ川崎プラザ」のベビー休憩室の増設の取組（神奈川県川崎市）

１．ベビー休憩室設置の経緯

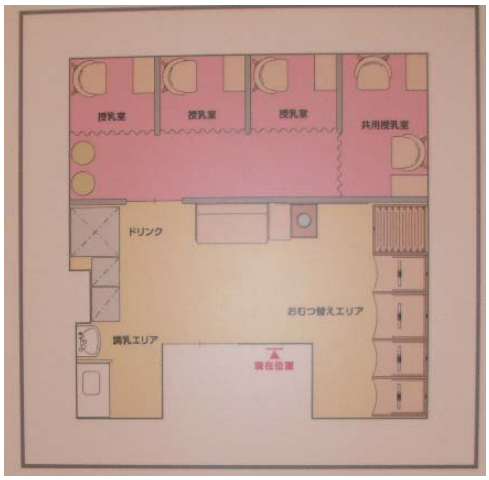
- 「ラゾーナ川崎プラザ」は、2006 年 9 月に JR 川崎駅前の大規模工場跡地に開設された。川崎駅から濡れずにアクセスでき、施設面積 17 万㎡の大規模ショッピングセンターである。
- 客層の中心は 20～30 代の独身または家族連れであるが、アクセスの良さから高齢者なども多い。またファッション、インテリア、雑貨、シネコン、家電などに加え、レストラン、生鮮食品も充実している。そのため、毎日の買い物に通う近隣住民の方も多く来店している。アクセスも電車、バス、自転車、車と多様である。

ラゾーナ川崎プラザ

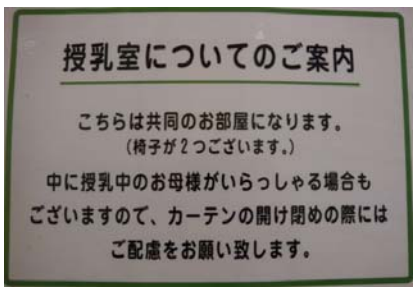
◆ 1F の授乳室

- 開店当初、授乳等が可能なベビー休憩室は１F に設置されていた。（また別運営でアカチャンホンポ（3F）にも一カ所ベビー休憩室有り。）

１F に設置された授乳室入り口
２F 授乳室の案内が貼られている



配置図、ピンクのゾーン（授乳室）は
男性の立ち入り禁止となっている。



突き当たりにある授乳室と案内の張り紙

おむつ替え台の横に
設置されているスケール

奥からシンク、給湯設備、
レンジ、自動販売機

◆ 2F に新設されたベビー休憩室

- 2009 年 11 月 20 日に 2F に新しいベビー休憩室が新設された。これは、1F ベビー休憩室だけでは施設規模に対して、授乳室の広さや授乳スペースの数が十分でないとの判断による。具体的には、店内を巡回し、場所に不慣れなお客様に対して案内したり、商品探しを手伝うサポートするアテンダント（常時館内を 4 人以上が周回している）がお客さまから意見を収集し、それを施設整備等に反映する仕組みを構築していることによる。アテンダントは授乳室も巡回しており、積極的に意見を聞いており、それらの蓄積によるところが大きい。意見収集の仕組みとしては、カスタマーサービスセンター、インフォメーションカウンター、アテンダントの他、意見箱への投書やホームページへの書き込みなどがある。
- 新たに 2F にベビー休憩室を設置するにあたっては、新設とは異なり設置場所の確保が必要になる。従前は身障者用トイレを含む男女トイレが設置されていた場所が候補としてあがった。ここは、施設内ではなく外部空間に面したトイレであり、利用頻度も低かったため、この際十分なスペースがとれること、近くにコイン式ベビーカーの貸出場所を設置していること、駅からの動線上も便利であることがベビー休憩室設置の決めてとなった。若干わかりにくい場所にあるため、1F のベビー休憩室に 2F にもベビー休憩室があることを案内する掲示を行っている。

2F ベビー休憩室の入り口

2F ベビー休憩室の脇にある
コイン式ベビーカート貸し出し

アテンダント
（パンフレットより）

２．2F に設置された新規授乳室を計画するにあたって

- 設計にあたっては 3 社コンペを行い、いろいろな提案がなされた中から、最もニーズにあったものを選択した。たとえば授乳室（男性は入室不可）については、全て個室にするという案もあったが、より有効にスペースを活用するという観点から、増加するニーズに対して柔軟に対応できること、ミルク授乳の方でも利用しやすいこと、ベビーカーが数台入っても十分広いスペースを確保したい等の理由により、複数人が同時に授乳できる共同の授乳スペースを確保した。兄弟がいる場合に上の子がいることで落ち着いて授乳ができない等の課題については、利用者から挙げられて指摘としては多かったものである。好みに応じて個室を選択することもできるため、多様なニーズに対応可能である。
- 親子トイレは従前の身障者トイレのスペースを改修したものである。子供のトイレのためだけに立ち寄る子供連れもいる。

2F ベビー休憩室の配置図

共同の授乳ルーム

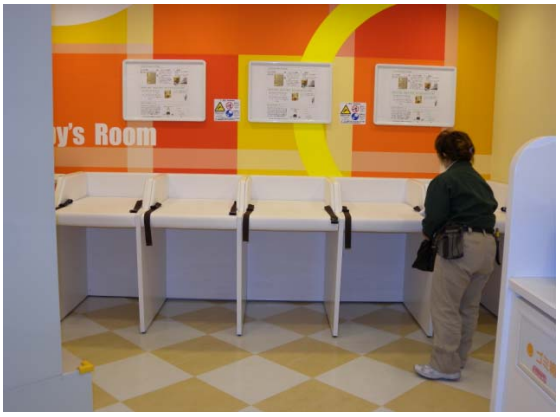
個室の授乳室

入り口に置かれたいす

・ 離乳食とジュースなどが複合した自販機はメーカーに要望を出して実現したものである。
・ 入口付近にはお父さんがくつろいで待つことができるようにいすを配置した。
・ おむつ台はメーカー品ではなく、製作したものである。スペースにあったものが設置できること、コスト的にもメリットがあった。あえて白を選択したのは、常に清潔を保つという意思の表れである。

３．運用にあたって

・ 清潔さの確保のため、1 時間に 1 回は清掃が入るとともにアテンダントも 1 日に 3 回程度は巡回して快適に使用できるように配慮している。たとえば、おむつ台の赤ちゃんを固定するベルトは、使わない場合は常に端に揃えておくことで、使う人がまず赤ちゃんを置く場合に邪魔にならないこと、すぐに赤ちゃんにベルトがしやすい位置になるような配慮をしている。
・ また警備員の巡回も入り、それに加え、監視カメラも設置しており、防犯的にも配慮をしている。



おむつ交換台、常に清潔かつ
使いやすい状態に保たれている

親子トイレ

レンジ、シンク、給湯器

スケール

自販機、ジュースだけでなく、離乳食も販売

４．その他の子連れの方への配慮

- 1F のインフォメーションでは、30 台のベビーカーの貸出を行っている。この貸出は人的に対応している。また、平日であっても混んでいる場合等は午前中の間に貸出用のベビーカーが出払ってしまうといった、貸出用のベビーカーが足りないとの課題を受け、コイン式で貸し出すベビーカー（100 円リターン式）を 30 台設けた。2F と 3F の 2 か所で 15 台ずつ貸出ししている。
- その他インフォメーションでは、「お子さまカード」（迷子になった時にスムーズに親と連絡がとれるようにするカード）の配布サービスを実施している。
- トイレ（一般用）にはおむつ替えシートを男女各 1 台ずつ設置し、男性のお客さまでも子どものおむつ替えができるようになっている。また、ベビーキープや着替え台をトイレブース内に設置し、子供の高さの洗面台、女子トイレ内の男子用の小便器などを用意している。
- 平面駐車場わきの外部空間には、キッズパークを設置している。ここは年間を通し、利用が多い。また買物客だけでなく周辺地域からも親子で遊びにきており社会貢献につながっている。

ベビーカー

コイン式ベビーカー

インフォメーションのサービス、貸し出しベビーカー
貸し出し用フックの案内

キッズパーク（寒い日にもかかわらず
遊んでいる子ども連れがいた）

住所　神奈川県川崎市幸区堀川町 72-1
電話　044-874-8000
開店時間　専門店と同様 10:00～21:00

■新設された三芳パーキングエリア（上り線）（埼玉県入間郡三芳町）

１．三芳パーキングエリアの概要

- 三芳パーキングエリアは関越自動車道上にあるパーキングエリアで、練馬方面から数えて最初の休憩施設となる。上り線においては 2009 年 12 月に Pasar（パサール）三芳がオープンし、レストランも設置されたことからサービスエリア並みの施設となった。
- Pasar とは、パーキングエリアの「PA」、サービスエリアの「SA」、リラクゼーションの頭文字「R」を組み合わせた造語であり、インドネシア語で「市場」という意味も持つ。

三芳 PA 位置図

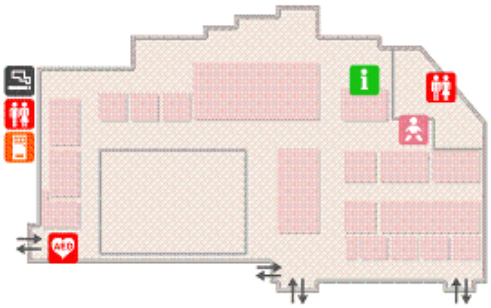
Pasar 三芳（出典：Pasar 三芳 BLOG）

Pasar 三芳の全体配置図

２．ベビールーム

- ベビールームは Pasar 三芳内に設置されている。
- ベビールーム等の設置は利用者からの要望等を勘案している。

- ベビールーム内は、授乳室（2 室）、おむつ交換台（4 台）、調乳用温水器（1 台）、シンク（1 台）、洗面台（1 台）、おむつ専用ゴミ箱（2 台）、に加え、キッズトイレ（男児用小便器（1 据）、小児用大便器（1 据））、子ども用洗面台（1 台）が設置されており、設備が充実している。
- 授乳室には内側に鍵が設置されており、ベビールームに男性も立ち入ることは可能。



Pasar 三芳平面図及び
ベビールームの位置

- ベビールームでは、利用者が安心して利用できるよう、内装材料に天然素材を用いるなどの配慮をしている。
- ベビールーム・授乳室の基準・仕様等は特に設けていない。
- 店舗従業員やエリアコンシェルジェ（インフォメーション従業員）により定期的に巡回・管理している。

洗面台とおむつ交換台

おむつ交換台

授乳室

シンクと調乳用温水器

おむつ専用ゴミ箱

キッズトイレ等

３．トイレ

- Pasar 三芳内のトイレはネクセリア東日本株式会社が、屋外（2 箇所）のトイレは東日本高速道路株式会社が設置・運営している。
- キッズトイレ等の設置についても利用者からの要望等を勘案している。
- 小児用便器やベビーシート等はトイレ設備メーカーの仕様。洗面台は子ども用の低い洗面台を設置し、日本建築学会の建築設計資料集成等を参考にしている。
- 洗面台の高さは、東日本高速道路株式会社の基準で定めているため、基本的には全 SA・PA で共通になっているが、一部の SA・PA で異なる場合もある。
- 商業施設やトイレ等の施設改修は、計画的に順次改修を実施。改修にあたっては、子連れ家族をはじめ、多様な利用者のニーズに配慮した設計を行っている。
- トイレ内のおむつ交換台やベビーホルダー等は、スペース等の制約により全 SA・PA には設置していないが、トイレ改修等に合わせて 1 個以上設置することで順次整備を進めている。

（１） Pasar 三芳内のトイレ

- Pasar 三芳内のトイレは、男性・女性トイレに加え、多機能トイレ（1 室）が設置されている。
- 男子トイレには、男児用小便器(1 据)、ベビーシート(1 台)が設置。さらに便房内にはベビーホルダーが設置されている。
- 女性トイレには、男児用小便器(1 据)、おむつ交換台及びおむつ専用ゴミ箱(各 1 台)が設置。さらに便房内にはベビーホルダーが設置されている。
- 便房内はベビーカーが入る程度の、ゆとりを持った設計となっている。
- 多機能トイレは、誰もが使えるユニバーサルデザインが施されている。
- 多機能トイレは幼児でも内側から鍵が掛けられる高さに設置されているが、緊急時に備え外側からも開けられる仕組みになっている。

男性トイレに設置された
男児用小便器

男性トイレに設置された
ベビーシート

やや広めの洋式トイレ
（男性側）

女性トイレに設置
されたおむつ交換台

女性トイレ洗面台
この奥左側におむつ交換台、
右側に男児用小便器がある

女性トイレに設置された
男児用小便器

多機能トイレ外側

多機能トイレ内側

オストメイト汚物流し

（２）　屋外トイレ

- 屋外トイレ 1、2 ともに、男性・女性トイレ内にそれぞれ簡易型多機能トイレを備えている。
- 屋外トイレ 2 では、男性・女性トイレとは別に、多機能トイレ（2 室）が設置されている。
- 屋外トイレ 2 では、男性・女性トイレ内にキッズトイレやベビーシートが設置され、さらに女性トイレにはベビーベッドが設置されている。

男・女性トイレに設置された簡易型多機能トイレ

男・女性トイレとは別に設置された多機能トイレ

男性トイレに設置されたキッズトイレ
女性トイレにも同じユニットが設置されている

女性トイレに設置
されたベビーベッド

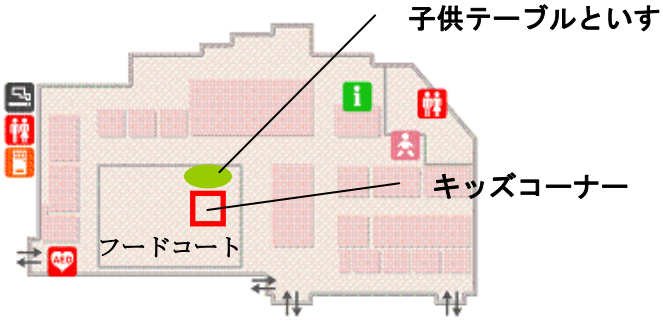
４．子どもが遊べる空間

- Pasar 三芳のフードコート内には、10 ㎡程度のキッズコーナーが設置されている。
- また、キッズコーナーを挟む形でテーブルといすが設置されており、保護者はわが子の遊んでいる姿を眺めながら食事等をすることができる。
- さらに、キッズコーナーの横には、食事用の子供テーブルといすが用意されている。
- 基準や仕様等はなく、市中の商業施設での設置事例等を参考に設計している。

キッズコーナー1

キッズコーナー2

子どもテーブルといす



キッズコーナー等の位置

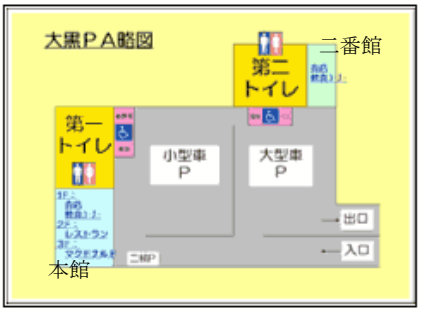
■大黒パーキングエリアの改修（神奈川県横浜市）

１．大黒パーキングエリアの概要

- 首都高速道路湾岸線の大黒ジャンクション内にある首都高速道路株式会社が管理する最大規模のパーキングエリア（以下大黒 PA）である。
- 売店等のある建物は本館とベイサイドテラス二番館の 2 棟があり、それぞれの建物に隣接して第一トイレ、第二トイレが設置されている。

大黒 PA 位置図

正面の建物は本館

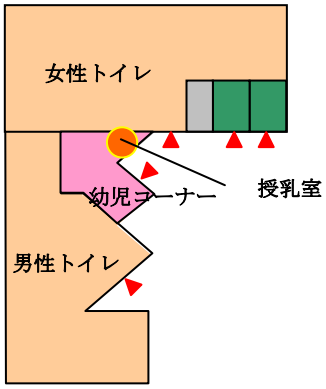


大黒 PA 全体図

出典：首都高速道路(株)HP

２．授乳室

- 授乳室は第一トイレ側の男性・女性トイレの間にある幼児コーナー内に 1 室設置されている。
- 室内は 2 人掛け程度のベンチと洗面台が設置され、内側から鍵を掛けることができる。
- 粉ミルクに使うお湯が必要な場合は、軽食コーナーでもらうことができる。



第一トイレレイアウト図

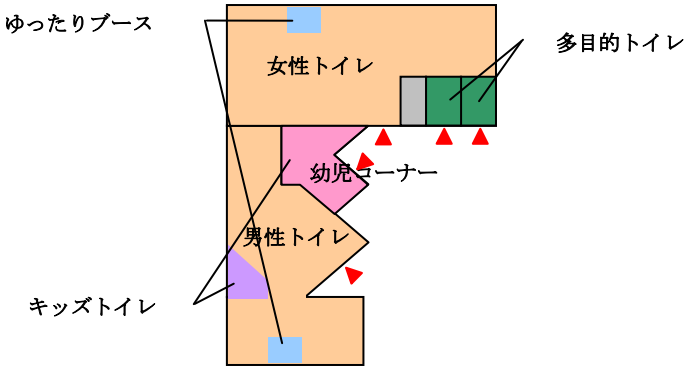
授乳室

授乳室にある洗面台

３．トイレ

（１）第一トイレ

- 幼児コーナーと男性トイレ内にキッズトイレが設置されている。
- キッズトイレの対象は 1～3 歳児程度を想定。
- 男性･女性トイレ内にそれぞれゆったりブース[1]が 1 室ずつ設置されている。
- また、男性･女性トイレの他に多目的トイレ[2]が 2 室設置されている。



第一トイレレイアウト図

第一トイレ前

幼児コーナー内のキッズトイレ（左）とキッズ用洗面台

男性トイレ内にあるキッズトイレ

---

[1] 男性・女性トイレ内に設置されている一般の便房より広めに設計されたトイレ。乳幼児用いすの他、おむつ交換台が設置されている。

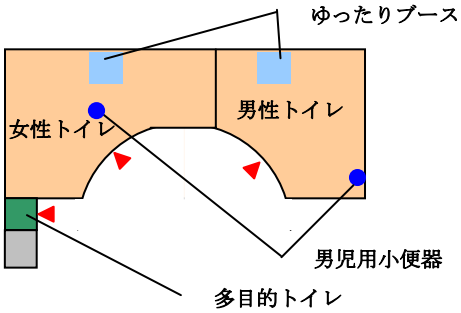
[2] 温水洗浄便座機能や、オストメイト設備、大人用介助ベッド等を設置したユニバーサルデザインのトイレで、車いすの方からご高齢の方、妊産婦、乳幼児連れの方まで幅広く快適に利用できるよう設計されている。

女性トイレ内にあるゆったりブース

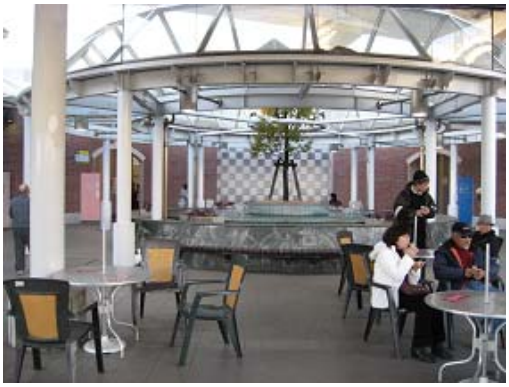
多目的トイレの外側（左）と内側（右）

（２）第二トイレ

- 男性･女性トイレ内にそれぞれ男児用小便器が 1 据、ゆったりブースが 1 室ずつ設置されている。
- また、男性･女性トイレの他に多目的トイレが 1 室設置されている。



第二トイレレイアウト図



第二トイレ前

男性トイレ内に設置された
男児用小便器と洗面台

■西日本の高速道路サービスエリアの取組（滋賀県大津市、岡山県新見市）

１．大津サービスエリア（上り線）

- 大津サービスエリアは、名神高速道路上にあるサービスエリアである。
- このサービスエリアの売店等が入る建物内には５㎡程度の授乳室が設置されており、授乳室で授乳中のお母さん達に読んでもらおうと壁に「子育て情報」を掲示したり配布を行っている。
- これ以外にも、「お父さんの育児情報」や「季節折々の情報」の掲示や配布、「子連れ親子が楽しめる施設への手作りマップ」を配布している。
- さらに、本サービスエリアではハイシーズンには子ども達にプレゼントを配布している。

壁に掲示された育児情報と配布用チラシ

お父さんの育児情報
報配布チラシ

手作りマップ

２．大佐サービスエリア（上り線）

- 大佐サービスエリアは、中国自動車道上にあるサービスエリアである。
- このサービスエリアでも、授乳室に「お子様連れで楽しめる施設のパンフレットをお渡ししています。ご希望の方はインフォメーションまで申し出ください」といった貼り出しをしており、申し出のあった家族等の意向を踏まえ、各地域の施設から取り寄せたパンフレット等を提供している。

遊具施設のある場所				
市・町名	名　　前	内　　容	最寄のＩＣ	入園料
勝央町	ノースヴィレッジ	アスレチック・動物とのふれあい等	美作IC	無料
津山市	グリーンヒルズ津山	ターザンロープ・石の滑り台等	津山・院庄IC	無料
鏡野町	男女山公園	恐竜ローラー滑り台・ターザンロープ等	院庄IC	無料
	ふれあい交流公園	滑り台・芝生広場等	院庄IC	無料
美咲町	まきばの館	アスレチック遊具・動物とのふれあい	院庄・落合IC	無料
真庭市	落合運動公園	アスレチック・遊具	落合IC	無料
	津黒高原	木製遊具・芝生広場	湯原IC	無料
	ヒルゼン高原センター・ジョイフルパーク	各施設あり	蒜山IC	有料
	勝山運動公園	アスレチック遊具・芝生広場	落合・久世IC	無料

インフォメーションで案内している
「遊のある場所」リストの抜粋

サービスエリアの利用客に渡して
いるパンフレットの一部

■移動式授乳･おむつ替え専用車「ポペッツタウン号」（横浜　元町ショッピングストリート）

１．ポペッツタウン号[1]について

（１）全国の商店街で初の移動式授乳・おむつ替え専用車

- 土・日・祝日や、チャーミングセールなどセール期間中の歩行者天国実施時間帯（概ね 12 時～18 時）に、横浜元町ショッピングストリートに出現する、移動式の授乳・おむつ替え施設（車両）。商店街を来訪したものは誰でも無料で使用できるようになっている。（運営：協同組合元町 SS 会）
- 2009 年 2 月から運用を開始し、一般車両通行止めとなっている路上に、平時はパーキングメーターのある駐車スペース（車道が多少広くなっている）を活用して停まっている。その日によって駐車場所が変わり、10 箇所をランダムに移動している。駐車スケジュールはホームページなどでも公開。
  普段は別の駐車場所に駐車している。
- 商店街独自で授乳スペースを設置するのは、全国の商店街で初の取り組み。商店街の店舗内に授乳スペースが設けられている例はあるが、商店街として設置された例はまだない。
  また、車両を利用した移動式の施設も初の試み。
- 車両の駐車場所は、日によって替わり、ホームページなどで利用可能日と駐車場所のスケジュールが確認できるようになっている。

（２）ポペッツタウン号概要

- 授乳室 2 室（カーテンで仕切ることができる個室）
- おむつ替え用のベッド 2 つ
- ミルク調乳用のポット（湯温 90℃前後）でお湯を提供
- おしりふきを提供。
- おむつ用ゴミ箱設置（使用したおむつを捨てていくことが可能）
- 相談員として育児アドバイス専用スタッフ（女性）が必ず 1 名常駐し、常時サポート可能な状態。気軽に色々相談できる話し相手として存在している。
- 調乳用のお湯についてはあまり利用がなく、1 日 1 件前後
- おむつゴミは、ショッピングの間もお客様が持ち歩かずに済むよう、捨てられる。ゴミは清掃員が頻繁に回収に廻ってくるので、車内にあまり溜まらない。
- ポペッツタウン号日誌にその日の出来事などが書き綴られており、ポペッツタウン号の宝となっている。
- 利用者は一日平均で 50 人前後。最大で一日 100 組超のときがあり、列を作って並んでいることもあった。

---

[1] ポペッツタウンはイラストレーター市原淳氏が作ったキャラクター。絵本、雑誌「おひさま」連載、CATV ディ済みーチャンネルでアニメーション放映、などメディア展開している。元町 SS 会では、取り組みのために使用権取得。

２．移動式授乳・おむつ替え専用車両への取り組みのきっかけ

（１）取り組みのきっかけ

・　元町ショッピングストリートでは、来訪するお客様のために、また、商店街の先駆者として、「常日頃から、お客様の役に立つことを考え」こだわりのまちづくりを行ない、様々な特色ある取り組みを発信しつづけている。ポペッツタウン号は、その中で生み出されたアイデアのひとつ。

・　お客様のためにできることとして、子連れの母親が外に出る機会が少ないということもあり、問い合わせの多い、授乳・おむつ替えスペースの設置の機会を窺っていた。固定施設として設置するための土地・建物や予算の確保が困難で悩んでいたが、あるとき、キャンピングカーを利用した移動施設なら実現できるかも、とひらめいたのが具体的な取り組み開始のきっかけ。車探しや運用面の検討など、独自の工夫を重ね、実現にこぎつけた。車両そのものは中古の適当なキャンピングカーが見つかり、比較的簡単な改修で必要設備が整備できたが、手続き等に意外に手間がかかり、発案から実施まで時間を要した。

（２）運用面での努力

・　ハードの初期投資は商店街の協同組合 SS 会の負担で賄ったが、日常の運営と設備の維持保全も、かなり大変な仕事である。各店舗に負担をかけないよう、1 件 1 件廻って子育て支援サポーターとしての援助を要請し、スポンサーを確保した。

・　商店街では、（ポペッツタウン号以外の取り組みも含め、）ソフト面を充実させ続けていくことを非常に重要視している。お客様が常駐のスタッフに気軽に育児面での質問や悩み事などを相談できるようにして、お客様が元気になれるように配慮している。お客様の生の声に耳を傾け、中途半端ではなく、徹底したサービスを心がけている。日誌にその日の出来事やお客様の声、要望などを記録し、活用している。

・　何事も、始めたあと継続的な運営をいかに維持していくかが重要である。運営維持は資金面でもマンパワー面でもかなりの努力が必要である。
　色々な取り組みにおいてのハードなどの初期投資には補助金制度があるが、運営面での補助制度はあまり存在しない。このような取り組みに対して、運営維持にも行政などからの継続的な補助があると、全国にもっと広まるようになるだろう。

・　「元町の事例をヒントに、他のところでも、自分たちにできることを考え、大いにいろんな取り組みを工夫して行なっていってほしい」

・　「利用者からのありがとうの声、感謝をいただけることが一番うれしい」

これからポペッツタウン号がやって来ます

歩行者天国実施

設置準備作業（電源）

前方から　パーキングメーター位置に駐車

側面から　窓の外からは中が見えない

ご自由に、無料でご利用頂けます
（日・英・中・韓文の案内）

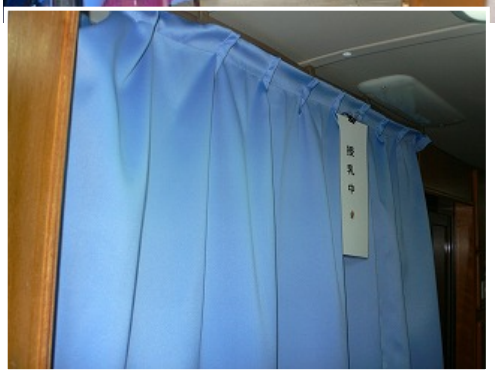
ベビーカーを止めておく所。車の脇に付けられた金具にベルトを通しロックできる（盗難防止にもなる）

内部の様子：

元キャンピングカーの中古車設備を上手く活用し、最小限の改修で、授乳・おむつ替え専用車に

車内の様子（衛生のため、土足禁止）
スタッフ１名が常駐し、育児アドバイス相談

調乳用のお湯とシンク。水はペットボトルで提供（蛇口の水は基本的には使用しない）



授乳室では、ポペッツタウンのキャラクターがお母さんと赤ちゃんをお出迎え
室内はやや狭いが、車窓から外の様子が見え、閉塞感を和らげている
（下はカーテンを閉めたところ）

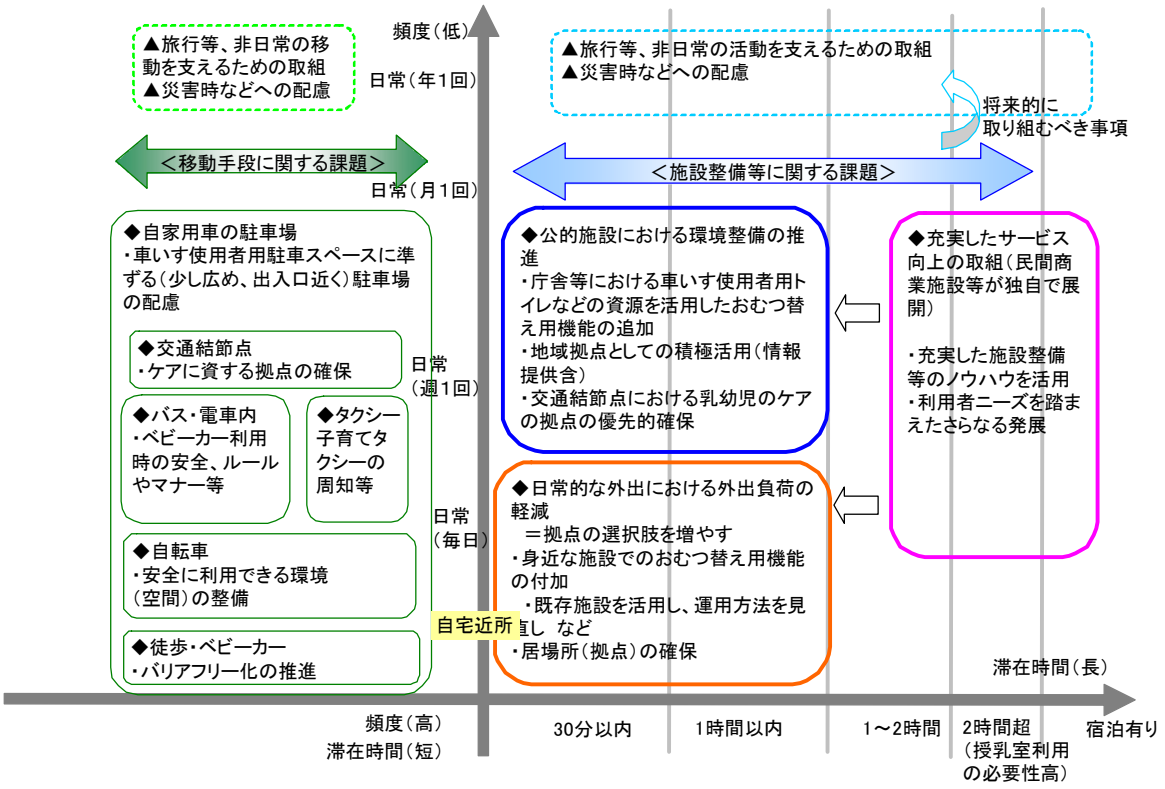
おむつ替え用ベッド：一度に２組利用可能（キャンピングカーに元々あったものを上手く活用）

無料提供のおしりふきとおむつ用ゴミ袋

おむつゴミは捨てて構わない
（ゴミは頻繁に清掃員が回収に廻っている）

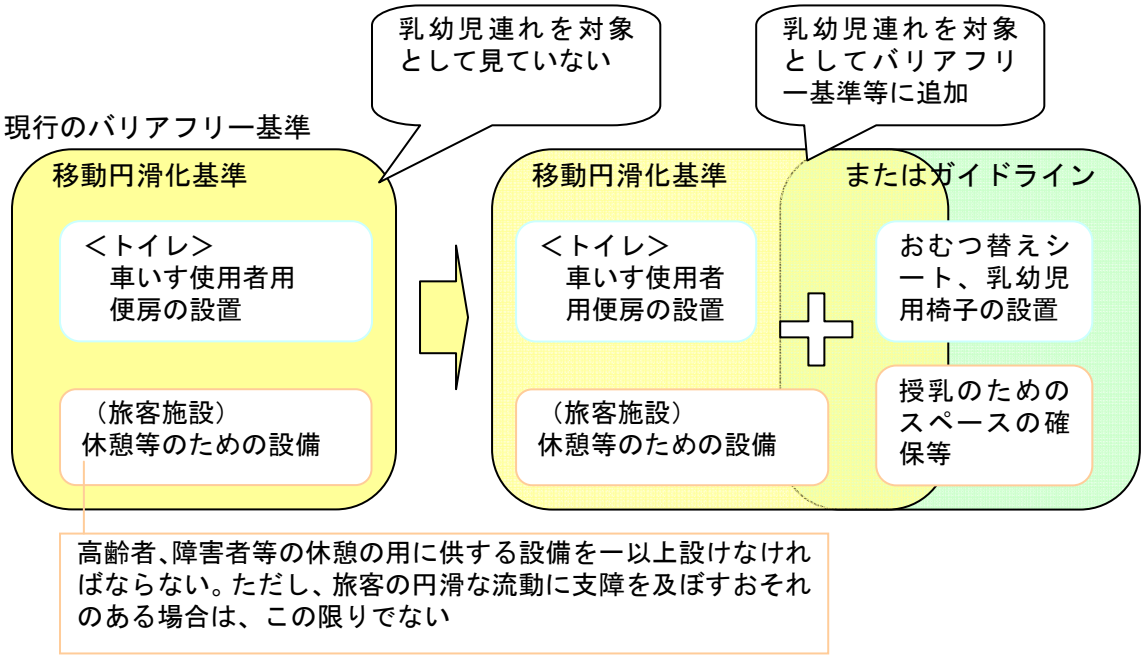
3.5. 乳幼児連れの外出負荷の軽減に資する整備の方向性

- 今回の調査を通じ、授乳やおむつ替えなどのケアを必要とする乳幼児連れの外出負荷は高いことが明確になった。しかし、外出時に必要とされる機能は十分に確保されているとは言えない。
- 乳幼児連れの外出特性からは、特に日常生活圏域における日常的な外出時の負担を軽減させることが重要であり、スーパーなどの身近な外出先で活用可能な資源を増やしていくことが求められている。その場合、大規模ショッピングセンターのような充実した機能を全てそろえることはスペースの確保等により困難であるといえるが、既存の施設を活用しつつ、おむつ替えができる機能等を付加するための工夫をしていくことが求められている。とりわけ、公共的な施設においては乳幼児連れの外出に資する機能の充実等による地域の資源化が期待されている。
- また、外出時の移動手段は、地域性や外出目的等に影響を受けるが、それぞれの移動手段を活用する際に配慮すべき事項が浮かび上がってきている。以降にそれぞれについて整理を行う。
- なお将来的には、旅行など非日常の活動を支えるための移動や災害時など緊急時への配慮などについても検討をすべきである。



3.5.1. 公共的な施設における乳幼児連れの外出負荷軽減に資する機能の充実

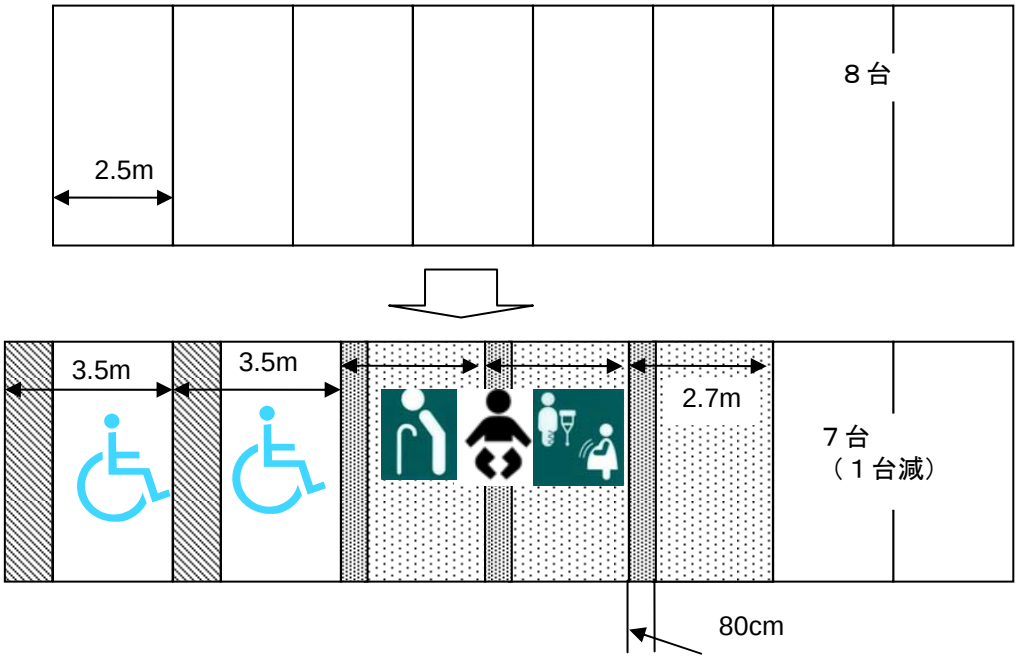
- 日常生活圏域内での乳幼児連れの外出負荷を軽減させるため、公共的な施設等に必要となる機能を付加・充実させることを促進していくことが期待される。
- 具体的には、バリアフリー法に基づく車いす使用者用トイレなどの整備をベースとしながら、乳幼児のケアに必要な機能を付加していくことが求められるとともに、将来的にはバリアフリー基準等へ反映し、必要な機能の確保を義務づけしていくこと含めて検討していく必要がある。
- 基準等で義務づけをする場合、その対象と範囲をどのように設定するかが課題である。現在ではどんな場所（位置）にどのような設備（機能）をどのくらい多く（数）確保したらよいかに関する基礎的な調査研究が存在しない。そのため、今後も学術研究等において乳幼児連れの外出実態等の知見を勘案しつつ、基準等への反映がはかられるべきである。
- また新設だけではなく、トイレ等の改修の機会をとらえた整備や、保育園などの既存資源の運用を工夫するなど、既存ストックの活用を図ることで、身近な場所での施設整備を進めていく取組が期待される。



3.5.2. 移動手段等に係る乳幼児連れへの配慮の充実

(1) 駐車場

- 乳幼児連れにとって、乳幼児自身に加え、かさばる荷物やベビーカーなど多くの携帯物とともに移動することが余儀なくされる。また、自家用車は、授乳室等がない場合の個室空間としても活用されており、自家用車が利用できることは乳幼児連れの移動にとって有利である。逆に自家用車が利用できない場合には移動負荷が高くなるため、公共交通機関での移動のしやすさに関する配慮を合わせて考えていく必要がある。
- 自家用車利用時においては、駐車場に対する不満が大きい。具体的には、駐車マスが狭いため、ドアを開けて子どもを乗降させるのに不便である、ベビーカーを車の横につけることができない、といった「幅」の問題と、ハッチバックのトランクからベビーカーを取り出す場合に「奥行き」が足りないといった問題がある。
- 車いす使用者用駐車場を使いたいとの声はあるが、車いす使用者用駐車区画に乳幼児連れが駐車すると車いす使用者にとっては停められないという問題が起こることが想定されるため、身体障害者用駐車区画が少数しか確保できていない状況において、乳幼児連れがそれを使うということは現実的ではない。そのため、車いす使用者用駐車区画に隣接した出入口に近い付近に、少し広めの駐車区画などを設置することも検討されるべきである。



※参考「東京都駐車場ユニバーサルデザインガイドライン」（財）東京都道路整備保全公社

(2) 駅等

- バリアフリー法に基づく整備が進み、多くの駅でエレベーターやエスカレーター、階段昇降機が設置されている。エレベーターやエスカレーターの代替措置である階段昇降機は、車いす使用者の利用に対して設置されたもので、ベビーカー利用者にとって使えない。ベビーカー利用者にとっての移動円滑化経路を実現するには、階段昇降機の利用の運用方法を見直す検討などが求められる。[4]

移動円滑化のための必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する規準を定める省令
＜旅客施設＞移動等円滑化された経路
第４条　公共用通路と車両等の乗降口との間の経路であって、高齢者、障害者等の円滑な通行に適するもの（以下「移動等円滑化された経路」という。）を乗降場ごとに一以上設けなければならない。
２　移動等円滑化された経路において床面に高低差がある場合は、傾斜路又はエレベーターを設けなければならない。ただし、構造上の理由により、傾斜路又はエレベーターを設置することが困難である場合は、エスカレーター（構造上の理由によりエスカレーターを設置することが困難である場合は、エスカレーター以外の昇降機であって車いす使用者の円滑な利用に適した構造のもの）をもってこれを代えることができる。

(3) 電車やバス

- ノンステップバスの普及などにより、ベビーカーをたたまずに電車やバスに乗車できるようになりつつあり、これによって移動負荷は軽減されていると言える。しかし、車いすに比べて構造的に弱いベビーカーは、急制動時などに子どもの安全性を十分確保できない。そのため、事業者によっては乗車時の細かなルールを定めており、利用者はこれらのルールを守り、さらに乗務員の安全運行などを徹底した上で、これらの取組が広がることが望まれる。また併せて混雑時の対応などのルールやマナーなどについても社会的な理解を得ていく必要がある。

(4) 自転車

- 2 人の子どもを乗せることのできる自転車が発売され、子育て世代の自転車利用の役割はますます大きくなることが見込まれる。小回りがきき、移動負荷も少ない自転車利用は自宅周辺の移動に活用されているが、子どもや荷物を乗せることでふらつくなど、転倒の危険性は高まるといえ、自転車走行空間の整備を進めることは重要である。
- 駐輪場においては、狭いスペースに多数駐輪するためのラック式や 2 段式などが採用されているが、通常の自転車よりも重量があり、電動機能がついている場合もある 2 人乗りの自転車を停めるのが困難な場合がある。そのため、2 人乗り自転車をはじめとする

[4] 段差解消機に関しては、告示（平成 12 年建設省告示第 1413）にその構造や安全装置が規定されている。「建築基準法及び同法関連法令　昇降機技術基準の解説 2009 年版」の解説では「第 1 第 9 号段差解消機で規定された『車いすに座ったまま使用するエレベーター』は車いす使用者を運搬することを目的としたものであり、一般に段差解消機と呼ばれている。なお、ベビーカー、ストレッチャー、シルバーカーその他これに類するものは車いすと見なす」との記述がある。

子どもを乗せた自転車利用者への対応として、出入口などに近接した平置きの駐輪マスなどを設けることが望まれる。